

各科目の目標を押さえる

3 P と 4 P のまえがきを読んでいる

8 P ～ 10 P を読んでいる

208 P : 「地理歴史科の目標」

10 P、つづいて 12 P を読んでいる

13 P ～ 19 P を読んでいる

24 P

2 地理歴史科の科目編成

26 P

世界史 A の目標

平成元年度版と平成 11 年度版との違いを押さえる

現代世界の形成の歴史的過程について、
近現代史を中心に理解させ、世界諸国相互の関係を多角的に考察させることによって、
歴史的思考力を培い、
国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

近現代史を中心とする世界の歴史を、
我が国の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、
歴史的思考力を培い、
国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

近現代史の範囲が 19 世紀から 16 世紀以降になった

→ 欧州中心の世界観になってしまう

いわゆる、大航海時代 → 「一体化する世界」

「諸地域世界と交流圏」

東アジア、南アジア、イスラム、ヨーロッパ

28 P まで

50 P から

世界史 B

現代世界の形成の歴史的過程と世界の歴史における各文化圏の特色について理解させ、
文化の多様性・複合性や相互交流を広い視野から考察させることによって、
歴史的思考力を培い、

国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

世界の歴史の大きな枠組みと流れを、
我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から
考察させることによって、
歴史的思考力を培い、
国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
52Pまで

84Pから
日本史 A
近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、
世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて考察させることによっ
て、
歴史的思考力を培い、
国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

享保の改革から
近現代史中心という性格を一層明確にした
86Pまで

近現代史の指導に当たっては、客観的かつ公正な資料に基づいて、事実の正確な理解に
導くようにするとともに、多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を育成するよう
にする。その際、核兵器の脅威に着目させ、戦争を防止し、民主的で平和な国際社会を実現
することが重要な課題であることを認識させること。